支部学術集会開催報告

第23回静岡県支部学術集会

学術集会会長：聖隷三方原病院肝臓内科部長　坂西康志

2016年8月6日(土)浜松市医師会館にて第23回静岡県支部学術集会が開催されました。79名の参加を得、「地域医療を作り上げるチカラ～高齢化社会で私たちができること～」をテーマに、一般演題11演題、教育講演2演題が発表されました。午前の教育講演では聖隷三方原病院精神科部長 浜松市認知症疾患医療センター長の磯貝 聡先生に「認知症の基礎と地域連携」をテーマに、話をしていただきました。認知症の基礎知識、認知症の予防、オレンジプラン、認知症疾患センター、認知症ケアクリティカルパスなど、今まさに日本が直面している問題で、高齢化社会において認知症への対応力が必要だと感じさせられました。

午後の教育講演では「慢性疾患の終末期を支える医療連携を学ぶ」というテーマで医師会、救命救急センター、在宅医療の開業医、急性期病院から講師を招き、慢性疾患終末期に関する諸問題について、それぞれの立場から講演していただきました。そして、医療機関での行き違い、それぞれの問題点について活発に討議していただきました。

本学術集会は医療の質やクリティカルパス、地域連携、高齢化社会での医療連携など、様々な分野での発表、意見交換の場となり、盛会のうちに終了いたしました。

第14回高知県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構高知病院病院長　大串文隆

会場風景

第14回高知県支部学術集会は、2016年8月28日(日)9:00～16:00に、国立病院機構高知病院の大串文隆病院長の当番会長によって、高知市文化プラザかるぽーとで開催されました。今回のテーマは、「変革の時代～地域に求められる医療～」とされ、参加者は429名にのぼり、学会非会員347名、学会会員35名、学生47名でした。この数は高知県で開催される支部学術集会の中では最も参加者が多い会となっています。講演はすべて口演で55題集まり、17セッションで熱い討論が展開されました。また特別講演に東京都健康長寿医療センター研究所の伊藤美緒氏をお招きし、「ユマニチュード®実践的な認知症ケアメソッド」というタイトルで、認知症ケアの衝撃的なお話をお伺いし、参加者全員に大きなインパクトを頂きました。わが国では、医療マネジメントへの関心は、どんどん高まり、高知県でも病院職員は以前と比較できないくらい医療マネジメントという方向性を向くようになってきたことが痛感されました。(文責 支部長 堀見忠司)

第15回青森県支部学術集会

学術集会会長：むつ総合病院病院長　橋爪 正

2016年9月3日(土)にアピオ青森イベントホールにて、第15回日本医療マネジメント学会青森支部学術集会を開催させて頂きました。当日は、暑い中にもかかわらず県内全域から160人を超す方にご参加いただき、大変有意義な学術集会となりました。

先ず一般演題でⅠ「医療安全・感染管理」、Ⅱ「医療の質」、Ⅲ「教育、地域医療、地域連携」、Ⅳ「業務改善①」、Ⅴ「業務改善②」の5セクションに分かれ多くの病院から参加いただき、21もの演題発表がありました。各発表とも充実した報告をいただき、活発な意見交換が行われました。

午後からの特別講演では、山形大学医学部総合教育センター中西淑美先生から「コンフリクト・マネジメントから見たインフォームド・コンセント」と題してご講演を賜りました。この度の学術集会が、ご参加頂きました皆様の今後の医療の一助になりましたら幸いに存じます。最後になりましたが、皆様のますますのご健勝と日本医療マネジメント学会青森支部の更なる発展を祈りまして、開催の報告と御礼とさせて頂きます。

第17回茨城県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構水戸医療センター名誉院長　植木浜一

会場風景

2016年9月3日(土)に茨城県立県民文化センターを会場として、第17回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会を水戸医療センターが担当で開催しました。今回は病院間の連携において他の病院の取り組みを学び、自施設の診療に活用していくこととともに、スムーズな連携のため他の病院状況を学ぶことを目的とし「病院間の協力ですすめる医療マネジメント」をテーマにしました。医師、看護師、コメディカル、事務職員等医学関係者が医療の質の向上を求めて講演、ディスカッションが進められました。

基調講演、教育講演、パネルディスカッション、ランチョンセミナー、一般演題59題、クリティカルパス9題の発表がなされ、運営スタッフを含め約470人の参加をいただきました。